

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2008年 10月号 (隔月刊) 第99号



木曜日の日本語教室でも勉強



みんなで協力しながら勉強

夏休み期間中の『国際子どもクラブ』 勉強と同時に、楽しいイベントなどにも参加

ふじみの国際交流センターの「国際子どもクラブ」は、日本に来たばかりの子どもたちが日本語や学校の勉強の補習などをする場。ふだんは毎週土曜日に開催されているが、夏休み期間中は週3回開催され、センターの関連イベントなどにも参加した。(詳しくは次ページ以降)



イベントで料理づくりに参加



食事の後はゲームで楽しむ



自分たちで作った料理は格別おいしい

ふだんの週1回を週3回に拡大して開催

日本語の勉強に加えて夏休みの宿題も
さらに、地域のイベントにも参加して交流

夏休みは

週3回に拡大して開催

国際子どもクラブ（以下「子どもクラブ」）は、毎週土曜日の10時から12時までの2時間、ふじみの国際交流センターを会場として、外国籍の子どもたちへの日本語指導や学習指導をしている。子どもたちはほとんどが日本に来たばかりで、できるだけ早く日本語を覚えたり、学校からの宿題などにも取り組まなければならない。そこで毎年、夏休み期間中は開催日数を増やして学習している。今年は、火・木・土の週三回、10時から12時が学習時間となった。

毎回、参加する顔ぶれは異なるが、ほぼ毎回参加したのは、いずれも5月ごろ来日したパキスタンからの兄弟デギルくん（中3）とアリくん（中1）、中国からの男の子の周くん、そして韓国からの女の子ユリちゃんだ。そのほかも含めると、毎回、5～10人ほどの子どもたちが、夏休みの子どもクラブに参加した。

外国の国名と日本の都道府県名を覚える宿題に挑戦

アリくんは20カ国の国名と47都道府県名を覚えるという宿題があった。まず、国の名前を覚え、その後は正確に書く練習だ。「オーストラリア」など、日本語と英語の発音が似ているけれど違うものや、ニュージーランドなど、「ー」（音引）が入るものが、とくに難しそうだった。その後は47都道府県。聞いたことがある県名は、北海道、埼玉、東京、京都、大阪の5つのみ。意味のある単語とは違い、耳慣れない地名を覚えるの

は大変なことだ。一日目は東北、二日目は関東甲信越というように、徐々に範囲を広げ、繰り返し書きながら覚えた。覚えることだけではなく、書き取りも努力が必要。たとえば、「とうきょう」が「ときよ」になってしまう。それでも、夏休みが終わるころには、47都道府県すべてが書けるようになった。しかし、学校でのテストでは時間が足りず、満点を取れなかったようで残念だったが、たとえ日本人でもだれもが言えるわけではない47都道府県を覚えているのは、自信につながるのではないだろうか。

お兄さんのデギルくんは、埼玉大学からのインターンとして来ていた尾形純さんが教えてくれることが多かった。尾形さんは、「いかにうまくわかりやすい日本語で説明するかが難しい。とくに数学が難しいが、伝わったときはすごくうれしい。ここでの勉強を通して、なんでも一生懸命やれば、結果がついてくることを伝えたい」と話していた。

日本語がわかるにつれ、 明るい表情に

デギルくんとアリくんは母親が日本人で、ある程度の日本語はわかっていたが、周くんと、ユリちゃんは、日本語はまったくの初めて。最初は、おとなしくまじめに、言われたことだけを淡々とやっていた二人だったが、日本語がわかるようになるにつれ表情が豊かになって、教材から少し離れて質問したり、なにかを伝えようしたりする積極性が出てきた。

とくに、周くんは最初のころ、あまり目を合わせることもなく、すごくおとなしい印象だった。ところが、日本語がわかるようになるにつれて積極的に

なり、意味が通じないときは中国語で書いたり絵を描いたりして、一生懸命、伝えようとするようになった。最近、ほかの中国からの学習者と話す様子を見て、ほんとうは話し好きで活発な男の子だということがわかった。今度、地域のバドミントン大会に参加するという。

ユリちゃんは、周くんに負けず劣らず、シャイでおとなしい女の子。日本語がほとんどわからないため、「疲れた?」「今日も頑張ったね」といった言葉も通じないので、なかなかコミュニケーションがとれなかった。それでも、少しずつ日本語がわかるようになると、笑顔が増えてきた。ユリちゃんは、「わかる?」と聞いたとき、本当にわかるまでなかなか納得しないのだが、絵やボディランゲージを使って、やっとわかったときは、すごくうれしそうな表情だ。

ふだんとは違う方法で 学習したり楽しんだり

この子どもクラブは土曜日開催。土曜日は、ふじみの国際交流センターの通常業務はお休みで、子どもクラブだけが活動している。しかし、夏休みには平日にも開催したことから、センターの関連するさまざまなイベントにも参加することができた。

毎週木曜日は、同じ時間に日本語教室が開かれているため、日本語を学習している大人たちや、お母さんと一緒に来ている小さな子どもたちと出会うことができた。土曜日とは違うボランティアの人もたくさんいて、センターの中が人であふれる盛況ぶりであった。なかでも、8月7日の七夕祭りのイベントでは、みんなで飾りの短冊を書いたり、そうめんを食べたりと楽しく交流することができた。

8月26～27日には、大井町社会福祉協議会が主催し、センターが協力して行われた「ディスカバー・ワールド」というイベントにも参加した。26日は、それぞれが持参したお弁当を食べた後は、ゲームをしながら自己紹介。自己紹介の際は、みんなのリクエストに答えて、恥ずかしそうにしながらも、国歌（パキスタンとフィリピン）を歌ってくれた。周くんは、まだ日本語のボキャブラリーも少なく、普段はおとなしいにもかかわらず、のどの調子が悪いからとジェスチャーを交えながら、「歌えない」とアピールしていたのがユーモラスだった。さらに、埼玉大学からのインターンである尾形さんが作成したそれぞれの国の紹介ビデオ（パキスタン、中国、フィリピン）を見ながら、それぞれの国について話し合い、そのあとはみんなでトランプのババ抜き。普段は、勉強している姿しか見ていないが、この日ばかりは、むきになって「やった!」とか、「もう1回!」と興奮している子どもらしい姿を見ることができた。参加者の日本人の中学生たちは、ゲームの説明をする役割に戸惑ったりしながらも、いままでは位置もわからなかった国について知り、何よりも、外国からの子どもたちと、遊べたのが楽しそうであった。また、27日には公民館に会場を移して、日本人と外国人の子どもたちが協力して料理を作って食事。その後はゲームなどをして目いっぱい楽しんだ。

こんなふうに、子どもたちはいつもとは違った方法で学習したり、地域の人たちとの交流を実現。子どもたちはもちろん、その成長を目の当たりにしている私たちボランティアにとっても、有意義な夏休みであった。

(文：上原美樹)

注：子どもたちの名前はすべて仮名です。

日本語指導が必要な外国籍の子どもたちが増加 教員養成のための施策と同時に 地域でのボランティア活動も重要に

増加する「日本語指導が必要な外国人児童生徒」

本誌の1～3ページで紹介した「国際子どもクラブ」は、ふじみの国際交流センターの近隣の地域に住む外国人子弟が対象の活動。家族とともに来日し、日本語がまだよくわからない子どもたちに対して、日本語を教えたり、学校での勉強の補習をしたりというのが活動内容だが、子どもたちの手助けをするのは、センターの活動に参加するボランティアの人たちだ。

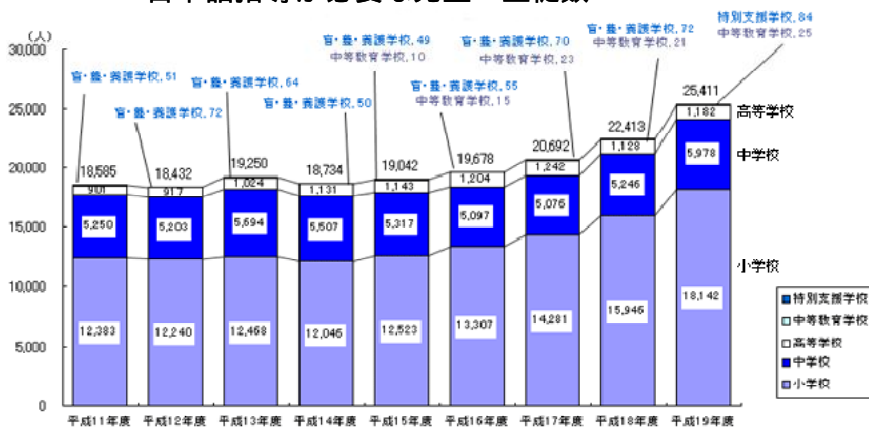
「国際子どもクラブ」は、基本的に毎週土曜日の午前中に開催していて、参加希望の子どもはいつでも無料で参加が可能だが、最近、ここに参加する子どもたち（ということは、日本に来たばかりで日本語が不自由な子どもたち）の数が確実に増加しており、ボランティアスタッフが常に不足ぎみの状態になっている。こうした増加の傾向は、必ずしもセンターの近隣地区だけの問題ではなく、全国的にも同じ傾向のようだ。

文部科学省では、毎年「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」（以下「受け入れ状況調査」）を行っているが、その2007年度（平成19年度）調査の結果によると、日本語の指導を必要とする「外国人児童

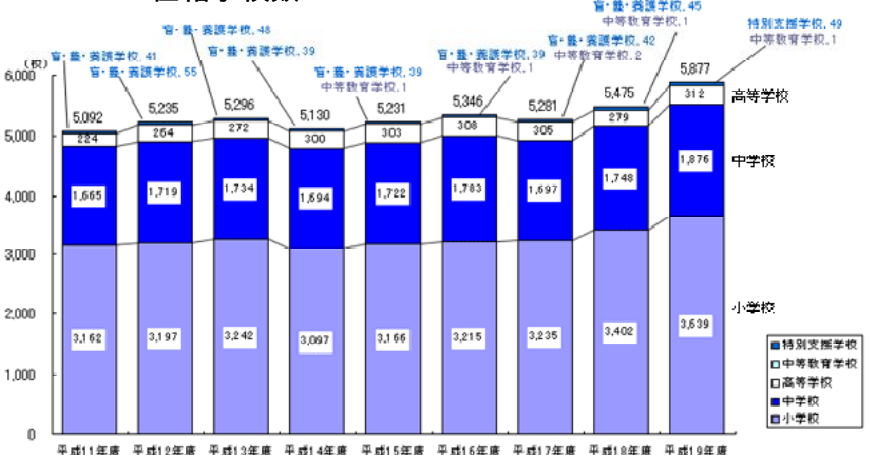
生徒」は、全国で2万5,411人にのぼる。その数は、近年、確実に増加しており、07年度は対前年度比で13.4%の増加となり、1991年度の調査開始以来、最も多い人数となった。学校種別では、小学校が最も多くて1万8,142人、中学校が5,978人、高等学校1,182人、中等教育学校25人、特別支援学校84人となっている。

「外国人児童生徒」が在籍する学校は5,877校。在籍人数は、「5人未満」が全体の約8割を占める一方、「30人以上」在籍する学校も増加している。在籍状況を都道府県別に見ると、愛知県5,030人、静岡県2,631人、神奈川県2,601人、東京都1,913人、三重県1,407人、

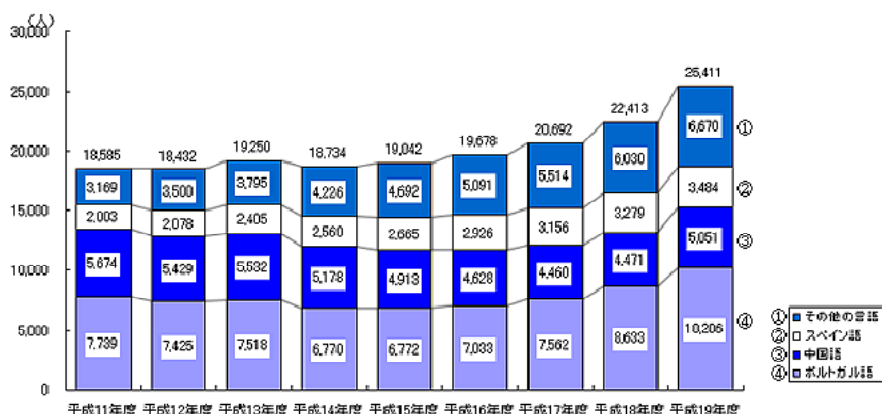
日本語指導が必要な児童・生徒数



在籍学校数



母語別児童・生徒数



定されている。

いわば、国は自国民の子弟だけでなく、在住するすべての子どもたちの教育を受ける権利を保障する責務をもっているということだ。

そこで政府は、受け入れ状況調査などを行って、その実態把握をする一方で、日本語

大阪府1,316人、埼玉県1,078人と続いている。

さらに、「外国人児童生徒」を母語別に見ると、ポルトガル語が1万206人と最も多く、中国語5,051人、スペイン語3,484人、フィリピン語2,896人、韓国・朝鮮語884人、ベトナム語834人、英語560人となっている。ポルトガル語、中国語、スペイン語の3言語で全体の7割以上を占める。また、この3言語以外の割合は、フィリピン語が全体の11.4%、韓国・朝鮮語が3.5%、ベトナム語が3.3%、英語が2.2%などとなっている。

国際条約で、すべての子どもに教育を受ける権利

もともと、こうした外国人の子どもたちが日本の学校に入学するのは、国際的な人権条約がその根拠となっている。日本は、国際条約として「国際人権規約」を1979年に、そして「子どもの権利条約」を1994年に批准しているが、こうした人権条約の中で締約国の責任として明記されているのが「教育を受ける権利の実現」。両条約とも、「初等教育は義務的なものとし、すべての者に対して無償のものとする」と明文で規定、さらに「中等教育、高等教育についても、すべての者に受ける機会が均等に与えられること」(両条約)、「定期的な登校および中途退学率の減少を奨励するための措置をとる」(子どもの権利条約)などとも規

指導を行う教員の増加や、教員、日本語指導者のための講習会、さらには地域・学校を指定して教育モデル事業などを行っているところだ。しかし、現状においては、多くの地域で日本語指導などを行うのは、専任の教員というよりは、地域住民などのボランティアの努力により支えられている面が大きい。

受け入れ状況調査でも、日本語指導が必要な外国人児童生徒数に対して、それが受けられているのは、全体で83.6%(小学校85.2%、中学校79.8%、高校79.5%)という結果となっている。

外国から来日して居住する子どもたちが増加する現状で、日本語指導教員の増加は必須の施策だが、その一方でふじみの国際交流センターなどボランティア団体の果たす役割は、ますます大きくなっているといえるだろう。

(取材・文：福田雅伸、内藤忍)

ボランティア活動にぜひご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、気軽にご連絡ください。

連絡先 TEL.049-256-4290

外国人のための生活情報を 6 カ国語で掲載

生活ガイドホームページ

周辺自治体との協働で制作し、定期的に内容更新

現在、ふじみの国際交流センター（FICEC）は、近隣自治体と協力して、地域に住む外国籍市民のための生活相談など、生活支援活動を行っているが、その一環として、ホームページの中に「外国籍市民のための生活ガイド」のコーナーを設けている。これは、日本で生活するために最低限必要なさまざまな情報を掲載して、2006年4月に公開したもので、まったく同じ内容を日本語に加えて英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語の計6カ国語で掲載している。

日本で生活する外国人の中には、日本に来たばかりで日本語がほとんど話せず、また理解できないという人がかなりの数にのぼる。しかし、そうした人たちも、日本で暮らす以上は、行政手続きや、病院へのかかり方、緊急時の通報手段などに関する知識や、情報を入力する手段が必要。そこで、富士見市、ふじみ野市、三芳町の3自治体とFICECが協力して外国人に必要な行政情報や、生活必須情報を編集して、FICECホームページ内に掲載しているものだ。

もともと、FICECと3自治体とは緊密な協働関係にあり、FICECは3自治体の外国籍市民相談窓口としての業務委託を受けている。さらに、3自治体がそれぞれ発行している外国人向けの生活情報印刷物も、FICECが編集協力するなどして制作されている。「生活ガイド」ホームページは、そうした印刷物の内容などをもとに、3自治体共通の情報ソースとして編集しなおして出来上がったものだ。内容を構成する際には、3自治体の協力、監修を受けているほか、内容更新も各自自治体からの情報提供にもとづいて定期的に行われている。

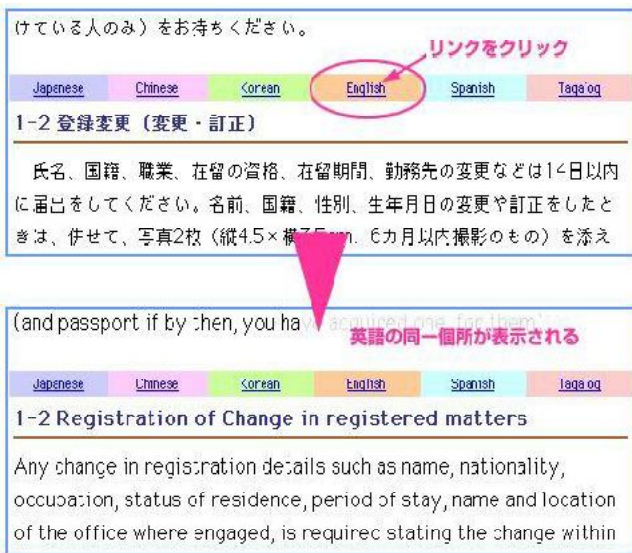


ホームページに掲載された内容は表のとおりで、「外国人登録」に始まる行政手続きから、「住宅」「銀行」「交通」「ごみの出し方」など生活必須情報、「教育」「子育て」など子どもに関する情報、さらにはさまざまな相談窓口なども掲載されている。また「施設案内」では、行政機関を中心に生活に必要な施設の住所、電話番号などが一覧表となっている。

生活ガイドホームページ内容項目	
●情報項目	
1	外国人登録
2	戸籍に関する届出
3	印鑑登録
4	住宅
5	水道・電気・ガス・電話
6	ごみの出し方
7	郵便・宅配便
8	銀行
9	交通
10	税金
11	仕事
12	国民健康保険
13	国民年金
14	近所づきあい
15	防災・火災・救急
16	交通事故
17	子育て
18	福祉
19	成人健康診査
20	教育
21	医療情報
22	各種相談
●施設案内	
23	市町関係施設
24	学校など教育関係施設
25	その他の公共施設
26	防災拠点(避難場所)
27	医療機関病院

情報の有機的な関連を工夫

このホームページの大きな特徴は、各国語の記述がそれぞれ有機的な関連を持たせて構成されていること。具体的には、各項目にはページ内に各国語の同じ項目へのリンクが配置されていて、例えば日本語の「外国人登録」の項を読んで、そこに表示されている「英語(English)」のリンクをクリックすると、同じ内容の英語の記述が表示されるという具合。



大項目から小項目まで、各項目には日本語からタガログ語まで6カ国語すべてのリンクが表示されていて、ホームページを見るひとは、各国語の同じ内容を1クリックですぐに表示することができるようになっている。

こうしたリンク構成によって、例えば日本人が知り合いの中国籍の人から手続きを聞かれたりした場合に、まず自分のわかる日本語で項目を画面に出して、そこに表示されている「中国語(Chinese)」のリンクをクリックすれば、同じ内容の中国語部分を読んでもらうことが可能。つまり、まず自分のわかる言語で表示して、それと同じ内容を相手のわかる言語で表示するといった使い方ができる。これが、6カ国語相互に可能となっていることから、日本人と外国人、あるいは外国人同士、

さらには自治体などの窓口での説明などに積極的に活用されることが期待されている。

こうした各国語へのリンクは、このホームページの全体に配置されていて、インターネットホームページの文書表示の大きな特徴である「リンク」の機能を最大限に活用して、ユーザーの利便性が向上するように工夫して作られている。

(文：内藤忍)



同一の内容を各国語で掲載

27
医療機関病院

Living Guide Top		診療科目			
Japanese Top		内	小	産	整
外国人登録	外国人登録	産科	小児科	産科	整骨科
戸籍に関する届出	戸籍に関する届出	産科	小児科	産科	整骨科
1位登録	1位登録	産科	小児科	産科	整骨科
5位登録/ビザ申請	5位登録/ビザ申請	産科	小児科	産科	整骨科
6位登録/入国	6位登録/入国	産科	小児科	産科	整骨科
7位登録/住民票	7位登録/住民票	産科	小児科	産科	整骨科
8位登録	8位登録	産科	小児科	産科	整骨科
9位登録	9位登録	産科	小児科	産科	整骨科
10位登録	10位登録	産科	小児科	産科	整骨科
11位登録	11位登録	産科	小児科	産科	整骨科
12位登録	12位登録	産科	小児科	産科	整骨科
13位登録	13位登録	産科	小児科	産科	整骨科
14位登録	14位登録	産科	小児科	産科	整骨科
15位登録	15位登録	産科	小児科	産科	整骨科

27-1 総合病院

Living Guide Top		診療科目			
Japanese Top		内	小	産	整
外国人登録	外国人登録	産科	小児科	産科	整骨科
戸籍に関する届出	戸籍に関する届出	産科	小児科	産科	整骨科
1位登録	1位登録	産科	小児科	産科	整骨科
5位登録/ビザ申請	5位登録/ビザ申請	産科	小児科	産科	整骨科
6位登録/入国	6位登録/入国	産科	小児科	産科	整骨科
7位登録/住民票	7位登録/住民票	産科	小児科	産科	整骨科
8位登録	8位登録	産科	小児科	産科	整骨科
9位登録	9位登録	産科	小児科	産科	整骨科
10位登録	10位登録	産科	小児科	産科	整骨科
11位登録	11位登録	産科	小児科	産科	整骨科
12位登録	12位登録	産科	小児科	産科	整骨科
13位登録	13位登録	産科	小児科	産科	整骨科
14位登録	14位登録	産科	小児科	産科	整骨科
15位登録	15位登録	産科	小児科	産科	整骨科

施設の住所・電話などのリストもある

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美
 小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子
 加藤久美子 金子忠弘 金子康子 上福岡教会 候 国
 際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 斉藤彩子 菅山
 修二 鈴木譲二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋
 智子 武田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩
 原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田
 栄子 東入間防犯協会 深見水季夫 三澤真理 村上
 省三 百瀬 滉 森田信子 (有)矢野住研 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります
 ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた
 「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入
 が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター (FICEC) のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由なこどもたちに日本語や勉強を教えます。 毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>英語教室 隔週水曜日・木曜日 午後7時～ 受講料：月4回4000円 第二、第四火曜日 午後1時～3時 受講料：月2回2000円</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 1回500～1000円</p>	<p>子ども英語教室 6歳から12歳を対象とした英語教室。 毎週金曜日 午後4時～5時 受講料：1回600円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

ようやく秋らしくなってきましたね。一番好きな季節です。ところで、誌面でお伝えしているように、国際子どもクラブの学習者が急増しています。ぜひ、みなさんもボランティアとして、参加してみませんか？お待ちしております。(上原)

最近、ちょっとハマっているのがインターネットでの買い物。例えば電気製品などは、量販店などで買えば、「希望小売価格」とやらの2～3割安で買えるのだ

が、インターネットで買うと、その量販店値段のさらに2～3割安で買えるのだ。インターネットショップが安く買えるのは、店を構えるための土地がいらないということが要因だが、いまの宅配便制度を利用すれば、地方の店で買っても、物流には何の問題もなくなるわけだ。さらに、インターネットでの買い物の強みは、比較する商品の数が、現実の店舗とは比較にならないくらい多いということ。実際に物を

見ていないので、ある程度の“想像力”が必要ではあるものの、ショップ側も相当な工夫を凝らして、サイズや写真などの商品情報を豊富に掲載しているのだから、選ぶ根拠としてそうした情報を使えるわけだ。ただ、インターネットでの買い物で気をつけなければならないのは、クセになってしまうこと。私はまだ“依存症”とまではいいられないと、自分では思っているのだが。(内藤)

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ(センター理事長)
 編集委員(50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291
 生活相談専用電話: 049-269-6450